



川崎フロンターレ

安心してスタジアムへ! 「街歩きバリアフリーマップ」 1/2

どなたでも安心してスタジアムにご来場いただけることを目的に、富士通株式会社と共同で、街歩きバリアフリーマップを作成しました。武蔵中原駅、武蔵小杉駅、新丸子駅から等々力陸上競技場への徒歩ルートに対して、バリアフリーの観点(スロープの有無、段差有無、多目的トイレ場所など)から実際に歩き見てマップを作成。また、車いす目線を確認することができる動画も撮影しました。作成したマップはクラブ関連施設、行政施設のみならずバリアフリーを勉強している中原区内の小学4年生全員に配布し、授業等で活用いただきました。



活動場所 等々力陸上競技場



協働者

企業、住民、学校

協働者名

富士通株式会社、東洋大学名誉教授(高橋儀平)、川崎市中原区内全小学校、川崎フロンターレサポーター



協働者の声

富士通株式会社 企業スポーツ推進室 / マネージャー 田中 雄輝 氏



スクール生(小学生)と一緒に車いすに乗りながらスタジアムまで歩き、障がいのあるサポーターと一緒に、試合も観戦しました。やっと実現できたこの日は、フロンターレが優勝を決める試合となり、スクール生と障がい当事者が1つの空間で喜びを分かち合えるととても貴重な1日となりました。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [TBS公式Youtube](#)
- 4 [朝日新聞記事](#)
- 5 [日経新聞記事](#)



カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ





川崎フロンターレ

安心してスタジアムへ! 「街歩きバリアフリーマップ」 2/2

Story

障がいの有無関係なく「誰もが」サッカーを「観る」ことが出来る。ダイバーシティにおいて当たり前のことであり、実際に等々力陸上競技場には「車いす席」もあります。ただ、車いす席で来場の方はほぼ車で来場されているのが実態。では、お車をお持ちでなかったら? 駅から車いすでスタジアムには来場できないのか? 車いすの方だけでなく、初めてスタジアムに来られる方や道なり不安な方は、その不安を抱いたままスタジアムに来場するのか。その「不安」を「安心」に変えるべく、富士通株式会社さまと議論したのが、ちょうど1年前の2020年冬ごろ。そこから話し合いをしつつ、「バリアフリーマップの



作成」に向けて動き出しました。2021年2月。フロンターレサポーターのみなさんに協力してもらい実際の経路を一緒に歩いて確認。車いすを利用しているかたもご参加くださり、歩道がない場所や狭い道など普段意識しなかった部分に気がつくことができました。2021年4月。この下調べを元に、スクール子どもたちに見て回ってもらおうと思い、「街歩きバリアフリーマップ作成イベント」を企画。しかし感染状況を考慮し中止に。時は過ぎ、2021年11月。緊急事態宣言の解除を待ち、作成したバリアフリーマップの印刷をしました。さらにマップに掲載されている中原区内の全小学校に配布。小学4年生のバリアフリーについて学ぶ子どもたちを対象に、いつも通る道をあらためて観察する機会になればとの思いでした。11月3日(水・祝)の浦和戦の日には実際にマップを見ながらスタジアムへの来場イベントを実施。スクール生を対象に車いすに乗りながら等々力競技場へと向かいました。徒歩ルートは、道幅、段差、勾配、歩車分離などの観点で、より安全な道をひとつひとつ選んでいます。事前に情報を



公開することで、一人でも多くのひとが安心してスタジアムを訪れることができるようになることを願い取り組みました。